

「主体的な学びを促す生活単元学習の授業づくりの在り方」

企画者	磯山 多可子	(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
	細川 かおり	(千葉大学教育学部)
司会者	磯山 多可子	(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
話題提供者	前田 忠彦	(熊本大学教育学部附属特別支援学校)
	佐々木 大輔	(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
	石田 哲也	(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
指定討論者	菅野 敦	(東京学芸大学教育実践研究支援センター)

主体的な学び 対話的な学び 他の教育活動とのつながり

【企画趣旨】

生活単元学習は、遊びの指導、作業学習とともに、知的障害教育における「各教科等を合わせた指導」の代表的な指導形態の一つである。主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないという知的障害のある児童生徒の特性を考慮し生活上の課題をテーマにし、「実際の・具体的内容の指導によって成功体験を豊富にし、主体的に活動に取り組む意欲を育てる教育活動」（現行学習指導要領解説 2009）として、多くの特別支援学校で、中心的な学習に据え、実践を積み重ねてきている。

時期学習指導要領では、子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという「主体的な学び」が重要視されている。生活単元学習は、その特徴から効果的な指導が実践できる指導形態であると考えられる。

本シンポジウムでは、話題提供者が教育活動全体を通した主体性を育むための実践として、学校の教育課程の特色を生かした授業づくり、評価方法について報告し、知的障害のある生徒が他者と関わりをもち、仲間とお互いを認め合いながら、自ら考え、学び、表現や行動する主体的な姿を育てる授業づくりについて議論することを目的としている。

【話題提供 1】「主体的な学びを目指した、各学習のつながりの工夫」前田忠彦（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

本校は、子どもの「夢や希望の実現」のため、特性やニーズに応じた質の高い授業づくりを目指し、P A T Hを用いた学校運営システム「熊大式授業づくりシステム」を開発し運用している。また、「各教科等を合わせた指導」や「教科別の指導」などを相互に関連させ、各学習のつながり（パッケージの指導）を生かした教育課程の編成を目指している。

本シンポジウムでは、本校中学部での作業学習と総合的な学習の時間の実践事例を紹介し、各学習のつながりの工夫による、子どもたちの主体性を高める工夫について報告する。

また、子どもの「夢や希望の実現」を目指した生活単元学習における授業づくりについても報告する。

加えて、「各教科等を合わせた指導」における学びをつなげるために本校で実施している教科毎の評価についての話題も提供する。

【話題提供 2】「生徒の対話的な学びを大切にしたい授業づくりの実践」石田哲也（千葉大学教育学部附属特別支援学校）

本校中学部では、生徒の主体的・共同的な学びを促すため、生活単元学習を中心に話し合いの場面や、自己選択・自己決定できる場面を意図的に設定した授業づくりを行い、生徒自身が授業計画に参画したり、学習の振り返りをしたりすることで、同じテーマに沿って仲間と共に関わり合いながら活動

に取り組むことを大切にしている。

本話題提供では、まずキャリア教育の考えをもとに作成した本校中学部の「育てたい力の表」より、生活単元学習のねらいについて報告する。そして、生活単元学習における授業の導入場面、展開の場面、振り返りの場面で行われる話し合いや自己選択・自己決定などの対話的な学びを促す授業づくりの工夫や学習環境の設定、教師の関わり方についての実践例を報告する。また、このような対話的な学びを通し、仲間同士の関わりや集団作りによどのような変化や効果をもたらせているのかについて考察する。

【話題提供 3】「課題別グループ学習と生活単元学習のつながりからの主体性の伸長」佐々木大輔（千葉大学教育学部附属特別支援学校）

本校中学部では、生活単元学習や作業学習を中心的な学習として実践しているが、他に個別課題学習やグループ学習（課題別縦割りグループ集団）などの学習に取り組んでいる。

本話題提供では、このような他の教育活動と生活単元学習での学習内容が、どのようにつながり、生徒の主体性を引き出しているのかについて検討する。焦点を「グループ学習」に絞り、3つの課題別グループの中で、それぞれ1名ずつの事例生徒を挙げ、グループ学習での目標や内容と生活単元学習の目標や内容が、それぞれどのように区別され、どのように実践されているのかについて整理し、生徒の主体性にどのような効果や変容をもたらせているのかについて考察したい。

実践の成果として、課題別グループ学習における、集団での「ねらい」を意識した活動を生活単元学習に取り入れることで、授業同士に「つながり」が生まれ、生徒の良い姿が違う場面でも般化されている場面が増えていることが分かった。

【指定討論者の要旨】

生活単元学習は、知的障害特有の教育課程のなかでこれまで取り込まれてきた。ここでは生活単元学習の授業において、生徒の「自ら考え、学び、表現/行動」する主体的な学びをねらった授業づくりのなかで、どのような学びを促すための仕掛けをつくっていったか、知的障害の障害特性をどう考慮して「自ら考え、学び、表現する」授業をつくっていくのか、また生徒の学びをどう評価して授業づくりにつなげていったらよいか、生活単元学習での学びをどう評価したらよいかなど、主体的な学びを促す生活単元学習の授業づくりについて議論したい。

さらに、時期学習指導要領で求められる「主体的、対話的で深い学び」（アクティブラーニング）について、生活単元学習における実践の可能性についても議論したい。

(Kaori Hosokawa, Takako Isoyama, Tadahiko maeda, Taisuke Sasaki, Tetsuya Isida, Atsushi Kanno)